

第 6 回 コミュニティバス評価委員会 議事録（案）

日時 平成 19 年 3 月 22 日（木）

18：00～20：00

場所 市川市役所 本庁舎 3 階 第 5 委員会室 1

出席者（順不同・敬称略）

【評価委員】

歌代 素克（自治会連合協議会）

林 正幸（自治会連合協議会）

江間 實（自治会連合協議会）

石渡 彰（自治会連合協議会）

相川 恒平（商店会連合会）

稲垣 操（商店会連合会）

（欠席者）

熊川 芳男（自治会連合協議会）

篠田 實（自治会連合協議会）

南雲 勝利（商工会議所）

近藤 静正（商工会議所）

【アドバイザー】

坂本 邦宏（埼玉大学大学院 工学博士）

【事務局】

市川市道路交通部交通計画課

【コーディネーター】

株式会社国際開発コンサルタンツ

## 議事次第

1. 開 会
2. 部長挨拶
3. 報告・確認事項
  - (1) 第5回評価委員会議事録について
  - (2) 北東部ルートの利用状況について
4. 議 事
  - (1) 提言書(第2案)について
  - (2) その他
5. その他
6. 議論の総括
7. 閉 会

---

---

## 議事内容

### 1. 開会

交通計画課長より

- ・平成19年度も引き続きコミュニティバスの運行を継続することになりました。本日も最終提言に向けて議論いただきたい。

### 2. 部長挨拶

道路交通部長より

- ・皆様に議論いただいた提言案によって来年度の予算を計上することができた。今年度は本日が最後の議論になると思うが、次年度のお願いをさせていただくかもしれない。議会でも多くの質問があった。今後も何らかの形でご意見をいただけるよう、お願いしたい。

### 3. 報告・確認事項

事務局より、委員会資料のホームページ掲載についての報告

- ・前回の評価委員会までの資料、議事録等を市のホームページに掲載させていただいたので、ご確認をお願いしたい。

コーディネーターより、第5回議事録の確認

- ・第5回議事録について、内容が了承された。

コーディネーターより、北東部ルートの利用状況についての報告

- ・資料3(p.16~)に北東部ルートの循環・往復ルートの利用状況を記載している。ルート見直し後の各ルートの利用割合の実績は、循環左回りが30%、右回りが33%、往復が37%となっている。休日では往復ルートが45%と高くなっている。
- ・p.17に便別の平均乗車人員を記載している。右回りは10人/便、左回りは8.7人/便、往復は10.9人/便となっている。平均乗車人員が7人以下(採算率30%以下)の便数は赤色で着色した部分であり、右回りが2便、左回りが2便、往復が3便となっている。休日では、左回りの7便が7人/便以下となっている。
- ・p.18にバス停案内図、p.19,20にバス停別の利用状況を示している。平日、休日ともにメディアパーク、市川大野駅、船橋法典駅、大野中央病院での利用が多くなっている。環状ルートのバス停にも需要が存在している。往復ルートの南側部分ではそれほど多くない。
- ・p.21,22にバス停間の利用の仕方の図を記載している。平日は駅や大野中央病院に集中している。環状ルートを半周にして往復ルートにしたらどうかというアイデアがあったが、環状ルートのバス停間で移動があるので、現在の需要に即している。休日は環状ルートの需要が減り、メディアパークへの需要が相対的に多くなっている。

#### 【林委員】

私は大柏地区に在住であるが、アンケートからは往復ルートの需要が多かったと認識している。2時間半に1本ではいかなものかと思う。北東部のメインは往復ルートにした方がいいと思う。ただし、船橋法典駅から医療福祉センターまでの朝夕は需要が多くなっているので必要である。

p.17の平均乗車人員の表は私の思っていたことと同じである。平日朝の左回りや往復ルートは路線バスを利用するのでコミュニティバスの利用者は少ない。往復ルートを2台にしないとアンケートの意見にあわないと思う。

#### 【事務局】

利用者が少ない便があるのは認識している。コミュニティバスのコンセプトからすると交通不便地域を通る循環ルートを2時間半に1本にするのはいかが

なものかと思う。

【林委員】

循環ルートは1時間に1本でいいと思う。現在は同じバス停で行き先が往復ルートと循環ルートがあり分かりにくいので、1つのバス停で1つの行き先にしたほうが分かりやすいと思う。

【コーディネーター】

現在、駅に向かう放射状の路線バスは存在しており、コミュニティバスをどこに通すのか、地域の人がどれほど協力できるのかを議論しないと個別の議論はできない。具体的な内容については提言書の議論の中で行っていただきたい。

#### 4. 議事・質疑応答

歌代委員長より

- ・提言書の第2案についてご議論いただきたい。

##### (1) 提言書(第2案)について

コーディネーターより説明

- ・提言書(案)の修正箇所についてp.23の資料4に示している。
- ・「はじめに」のあとにバスルート図を追加
- ・(目次) 提言書がどこまでわかるように、.を「提言書」とし、.を「提言書の内容」とした。
- ・p.1 3.(2)「運行ダイヤ」を追加  
4.(1)文章を追加
- ・p.8 「ダイヤ」を追加、見出しを修正  
下段の意見を修正  
最下段の文章を修正
- ・p.11 中段囲みの意見を一部削除
- ・p.12 「グラフ参照」を追加
- ・p.14 見出しを修正
- ・p.15 「コミュニティバスの路線配置と時間短縮効果の概要」を追加
- ・p.17 具体の試算結果を割愛し、コメントを追加  
合計2,600万円の導入効果を記載  
自転車の転換台数を記載

移動時間の短縮効果等のコメントを追加

- ・ p.18 上段囲みの意見を一部削除
- ・ p.19 上段囲みの意見を一部修正  
中段表のタイトルに「参考」を追記  
採算率試算表を削除

【歌代委員】

前回からの訂正についてご意見をいただきたい。

【歌代委員】

p.15 のコミュニティバスの路線図面は北東部の色がわかりにくい。

【コーディネーター】

赤い色をオレンジ等にして見やすくしたい。

【歌代委員】

財政補填率の問題は、本来は市が決めることである。

【コーディネーター】

提言の主旨としては、市に対しての意見だと考えている。

【林委員】

p.19 の「市のランニングコストを3割以内に」という発言があったのか。

【コーディネーター】

林委員が発言されたと記憶している。

【林委員】

「してほしい」とは言っていない。元々赤字をなくすことは難しいので、せめて3割くらいになるよう努力すべきという主旨であった。

【アドバイザー】

今よりも減らすべきだという主旨であったと思う。

【コーディネーター】

「市の負担は現在6割だが、今よりも少なくなるよう取り組むべきである」という表記ではどうか。

【稲垣委員】

目標は持った方がよい。そうしないと他の地域でも導入したいとなったときに判断ができないことが心配である。

【コーディネーター】

新しい地域に導入しても撤退することもあり得るので、新しい枠組みを持つことが必要であるかもしれない。

【アドバイザー】

どのくらい負担ができるかを市が定めて欲しいという意見であると思う。

【コーディネーター】

意見の3番目（今後、実験を継続しながら財政補填率の目標を持つようにしていけばよい）が「市が持つべきだ」という主旨であると思う。p.18の見出しは「財政補填率の目標を持つべき」という表記に変えたほうがよいか。

【稲垣委員】

財政補填率は5割以下にしたほうがよい。予算を組むには他の事業のこととも関連してくる。受益者負担という考え方もある。経済効果もプラスの面だけを計算しているので、簡単には試算できないと思う。目標は持っていた方がよい。

【コーディネーター】

p.17は経済効果を文章で記載する方がよいとなっていたが、具体的な数値は記載するか。所要時間や新たな消費金額として紹介しているが、これを貨幣換算することについてはどうか。

【林委員】

最初は換算方法がよく分からなかったが、きちんとした一般的な方法で算出しているのなら参考として記載してもよいと思う。

【コーディネーター】

具体的な文面についてはどうか。

【稲垣委員】

一般的な方法で算出しているのならよいが、一般の人には理解できないのではないか。

【コーディネーター】

一定のルールに則って計算している。

【歌代委員】

2,600万円の効果があるなら、6,000万円の税金を投入してもよいとなるのか。

【コーディネーター】

2,600万円の効果なら、税金投入は2,600万円と考えるのが妥当である。

【歌代委員】

難しい説明をしないといけないのでは、一般の人には理解できない。

【林委員】

一定の方式で算出しているのなら、記載してもよいのではないか。

【コーディネーター】

もし議会等で試算の詳細について求められたら、別途提示すればよい。

【歌代委員】

議会で質問されたらきちんと答弁できるようにしておかないといけない。

【事務局】

試算方法を完全に理解するのが難しいのであれば、盛り込まないほうがよいのではないか。

【歌代委員】

先生のお考えはどうか。

【アドバイザー】

委員会当初の意見の中には「試算ができるのであれば賛成である」とあったので、難しい方法であるがそれが一般的な方法であると理解できたのであれば、記載した方がよいのではないか。

【コーディネーター】

他の委員の方はどうか。

【相川委員】

バス利用者が便利になってよかったという声が本来のコミュニティバスの効果であって、貨幣換算をする必要はないと思う。

【コーディネーター】

北東部では、バスを乗り継いでも行くことができない地域にコミュニティバスを利用して行けるようになった。その結果、移動時間が今までより半減したらそれは社会的に意味のあることであり、そのような効果を試算しようという事であったと思う。人が移動しやすくなったことが社会的効果であると考えている。

【稲垣委員】

コミュニティバスを利用しても消費が増えるわけではないので、その効果を説明することは難しい。初めてこの提言を見る人には、コミュニティバスにより2,600万円も儲かったのかと誤解されてしまう。

【アドバイザー】

提言の見出しに「効果がある」といっているのですが、その説明として数値を記載した方がよいのではないかと。

【石渡委員】

コミュニティバスによる社会的効果はあると思うが、コミュニティバスでコルトンプラザに行き、買い物しても地元商店の消費は増えない。逆に、大野中央病院を利用する人には便利になり効果があると思う。

【稲垣委員】

普通、バスは病院等の敷地までは入らない。

【林委員】

医療福祉センターにも入っている。

【コーディネーター】

病院敷地内へのバスの乗り入れは理想的なことであると思う。

【江間委員】

社会的効果を数値で示すことはいいと思う。大野中央病院は私も利用している。整形外科があり、リハビリをしている人も多いので、コミュニティバスが乗り入れることは大変便利である。

【コーディネーター】

コミュニティバスの効果は数値を記載することでよいか。

【アドバイザー】

参考として記載すればよいと思う。

【コーディネーター】

p.19の市の負担を3割という数値は削除した方がよいか。また、稲垣委員の負担を「半分以下に」という意見についてはどうか。

【稲垣委員】

何事もある程度の目標を持っていないといけないと思う。そうしないと、実験から本格運行へと進まないと思う。

【歌代委員】

「5割以下」としてはどうか。

【林委員】

市の財政状況がわからないし、他の地域でのコミュニティバスの要望等も把

握していない中で具体的には決められない。6割負担はあまりにも多いと感じるが、3割ならよいという判断もできないと思う。

【稲垣委員】

市がどのくらい負担できるかによると思う。

【歌代委員】

p.18の見出しを、p.19の意見3行目の「今後、実験を継続しながら財政補填率の目標を持つようにしていけばよい」とリンクさせたらどうか。

【コーディネーター】

提言の内容はそれが結論であると思うが、議論の内容を紹介した方がよいか。

【歌代委員】

よい。

【アドバイザー】

p.18の最初の意見の中に記載してもいいのではないか。

【コーディネーター】

資料では、アンケート調査の前後の意見として整理している。

【稲垣委員】

目標の数値を出すと委員の発言があまりにも冷たいなと感じてしまう。なるべく利用者が増えるように努力しているので、市民の負担をできるだけ下げるようにしていきたいと思う。

【歌代委員】

数値目標を持ってもよいのではないか。

【石渡委員】

私も数値を入れてよいと思う。

【アドバイザー】

意見の整理として、3割だけではなく本日出された5割という意見も併記したほうがよい。

【コーディネーター】

本日の意見を踏まえて意見として提言書に取り入れることとしたい。

p.18の見出しについてはどうするか。

【歌代委員】

「目標を持つ」と記載した方がよい。

**【コーディネーター】**

他の内容についてはどうか。

**【林委員】**

p.2 の意見で、「防犯上の問題や、犯罪、高齢化社会」という表記があるが、防犯とコミュニティバスの議論をいただろうか。また、「不公平ではなく、平等の中でそのような地域を対象とするような時代になってきた」という表記の意味がよく分からない。北東部が交通不便地域なので歩くよりバスに乗った方がよいという意味なのか。

**【事務局】**

防犯の件は、当初の委員会で、大町地区までの延伸についての議論の際に小学生も利用できないかという意見があったと記憶している。

**【林委員】**

通学利用となると、ダイヤの問題も出てくる。

**【歌代委員】**

アンケートでは、防犯等の問題があったらどうか。

**【事務局】**

防犯や犯罪というのは現在の社会情勢のことをいって、コミュニティバスの主旨をはっきりさせた方がよいという意見であったと思う。

**【林委員】**

社会情勢であるならば、そのことをはっきり明記した方がよい。アンケートでも税金投入してもよいという意見が多かったと思う。

**【コーディネーター】**

防犯等の言葉だけでは説明が足りないと思う。この意見は削除したほうがよいか。

**【アドバイザー】**

議事録をもう一度精査した方がよいのではないか。

**【コーディネーター】**

防犯上の問題からコミュニティバスを導入しようという議論には至らなかったと思うので、この表記は削除したい。「不公平ではなく、～」という文章は主旨が分かるように修正したい。

**【林委員】**

p.8 の「北東部は環状ルートがないからと言っていたが、住民感情から考えたらそうではない」という表現が分かりづらい。

【コーディネーター】

主旨としては、文章の上にある「利用価値を高めるためには駅に行くことである」と同じであると思う。

【林委員】

この表記はできれば削除していただきたい。前後の文章がないと意味が分からない。

【稲垣委員】

「住民感情」ではなく、「住民の意見」と表記すれば意味が分かる。

【アドバイザー】

コミュニティバスは環状ルートではなく、放射状に駅に向けた方がよいという意味であるのか。

【林委員】

生活圏から考えると横方向の動き方はあまりない。

【歌代委員】

この文章（北東部は環状ルートがないからと言っていたが、住民感情から考えたらそうではない）は、削除した方がよい。

【コーディネーター】

p.8の「利用価値を高めるためには駅に行くことである」の前に「北東部においては」と追記する。

【林委員】

若宮の交通問題を考える会では、下総中山駅や船橋法典駅を結ぶルートを目的としている。

【アドバイザー】

p.19の表は何を意味しているのかが分からない。新運行計画とは何か。

【事務局】

昨年7月に運行計画が新しくなり、現在の運行計画で1年間の試算をした結果となっている。

【アドバイザー】

新運行計画の注釈を入れても、この表がどこの内容とリンクしているのかがよく分からないと思う。

【コーディネーター】

表に対する補足説明を追記したい。

【事務局】

現状を踏まえて目標設定をできればよいが、「市の負担を3割に」という数値は感覚的なものであったと思う。

【林委員】

採算率を「財政補填率」に変えたほうが分かりやすい。

【事務局】

第1回の委員会では、赤字補填率で説明していたが、その後採算性の目標設定に関する議論が出てきたので、その目安として今回の表を記載させていただいた。

【林委員】

タイトルが財政補填率となっているので、それに合わせた方がよい。

【コーディネーター】

表中の採算率を「補填率」に直し、新運行計画は現在の運行計画とし、その開始時期を明記したらどうか。

【アドバイザー】

p.19の表は、p.18の冒頭の文章(18年度の運行に必要な経費は約1億円ですが、運賃収入は約4千万円、年間で約6千万円の赤字(税金投入)になると予測されます)の参考の表として注釈を加えた方が分かりやすい。

【コーディネーター】

他の内容についてはどうか。

【アドバイザー】

提言書の中に、料金を150~200円と明記されているが、この数値は決定されたのか。

【コーディネーター】

150~200円という料金の幅までは議論したが、料金の決定はなされていない。

【アドバイザー】

議論された内容であるならば、提言として入れてもよいと思う。

## 5. その他

提言の作成期限について

- ・本日議論した内容について、意見のある方は明日(3/23)までに事務局に連絡する。
- ・修正資料については、郵送を持って代えさせていただく。

提言書の市長提出について

- ・市長への提言書の提出については、歌代委員長と日程調整を行い後日各委員へ連絡する。

6．議論の総括

歌代委員より

- ・市川市民のために熱心にご議論いただき、ありがとうございました。

7．閉会

交通計画課長より

- ・本日まで活発な意見をいただき、どうもありがとうございました。

以 上